令和６年度 学生生活の満足度調査結果（コミュニティ生活学科）

１　調査回答者

２年次　６９名（調査対象：７２名　回答率：９５．８％）

２　調査結果

１）満足度調査

●共通質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	カリキュラム（教育課程）	0 人 0%	2 人 3%	27 人 39%	40 人 58%	0 人 0%	69 人	97%
	授業	0 人 0%	2 人 3%	28 人 41%	39 人 57%	0 人 0%	69 人	97%
	ICTの活用	0 人 0%	5 人 7%	30 人 43%	34 人 49%	0 人 0%	69 人	93%
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	2 人 3%	22 人 32%	45 人 65%	0 人 0%	69 人	97%
	チューターのサポート体制	0 人 0%	1 人 1%	15 人 22%	53 人 77%	0 人 0%	69 人	99%
	職員のサポート体制	0 人 0%	1 人 1%	28 人 41%	40 人 58%	0 人 0%	69 人	99%
	保健室	0 人 0%	4 人 6%	24 人 35%	41 人 59%	0 人 0%	69 人	94%
	学生相談室	0 人 0%	4 人 6%	25 人 36%	40 人 58%	0 人 0%	69 人	94%
キャリアアップ	就職支援体制	1 人 1%	1 人 1%	24 人 35%	43 人 62%	0 人 0%	69 人	97%
	資格取得支援体制	1 人 1%	1 人 1%	25 人 36%	42 人 61%	0 人 0%	69 人	97%
自治会活動	大学祭	1 人 1%	5 人 7%	31 人 45%	32 人 46%	0 人 0%	69 人	91%
	スポーツ大会	2 人 3%	4 人 6%	34 人 49%	29 人 42%	0 人 0%	69 人	91%
	自治会活動全般	2 人 3%	4 人 6%	36 人 52%	27 人 39%	0 人 0%	69 人	91%
施設	図書館	0 人 0%	0 人 0%	28 人 41%	41 人 59%	0 人 0%	69 人	100%
	食堂	2 人 3%	4 人 6%	20 人 29%	43 人 62%	0 人 0%	69 人	91%
	施設や設備全般	3 人 4%	6 人 9%	24 人 35%	36 人 52%	0 人 0%	69 人	87%
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	0 人 0%	1 人 1%	25 人 36%	43 人 62%	0 人 0%	69 人	99%

●学科独自の質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	授業科目が豊富で充実していた。	0 人 0%	0 人 0%	27 人 39%	42 人 61%	0 人 0%	69 人	100%
	自分の将来の目標や適性にあわせて授業科目を自由に選べるのがよかった。	0 人 0%	0 人 0%	25 人 36%	44 人 64%	0 人 0%	69 人	100%
	学びたいと思っていたことを学ぶことができた	1 人 1%	0 人 0%	26 人 38%	42 人 61%	0 人 0%	69 人	99%
	入学前に期待したとおり（又は期待以上）の	4 人 6%	0 人 0%	25 人 36%	40 人 58%	0 人 0%	69 人	94%
学生生活	自分でチューター（セミナー）を選べるのが	0 人 0%	0 人 0%	20 人 29%	49 人 71%	0 人 0%	69 人	100%
	自分にとって大切な友達を作ることができた	1 人 1%	1 人 1%	19 人 28%	48 人 70%	0 人 0%	69 人	97%
	自分の個性を大切にしてくれる学科だ。	0 人 0%	0 人 0%	24 人 35%	45 人 65%	0 人 0%	69 人	100%
	コミュニティ生活学科に入学してよかった。	0 人 0%	0 人 0%	21 人 30%	48 人 70%	0 人 0%	69 人	100%
	入学してきた時よりも成長した。	0 人 0%	4 人 6%	18 人 26%	47 人 68%	0 人 0%	69 人	94%

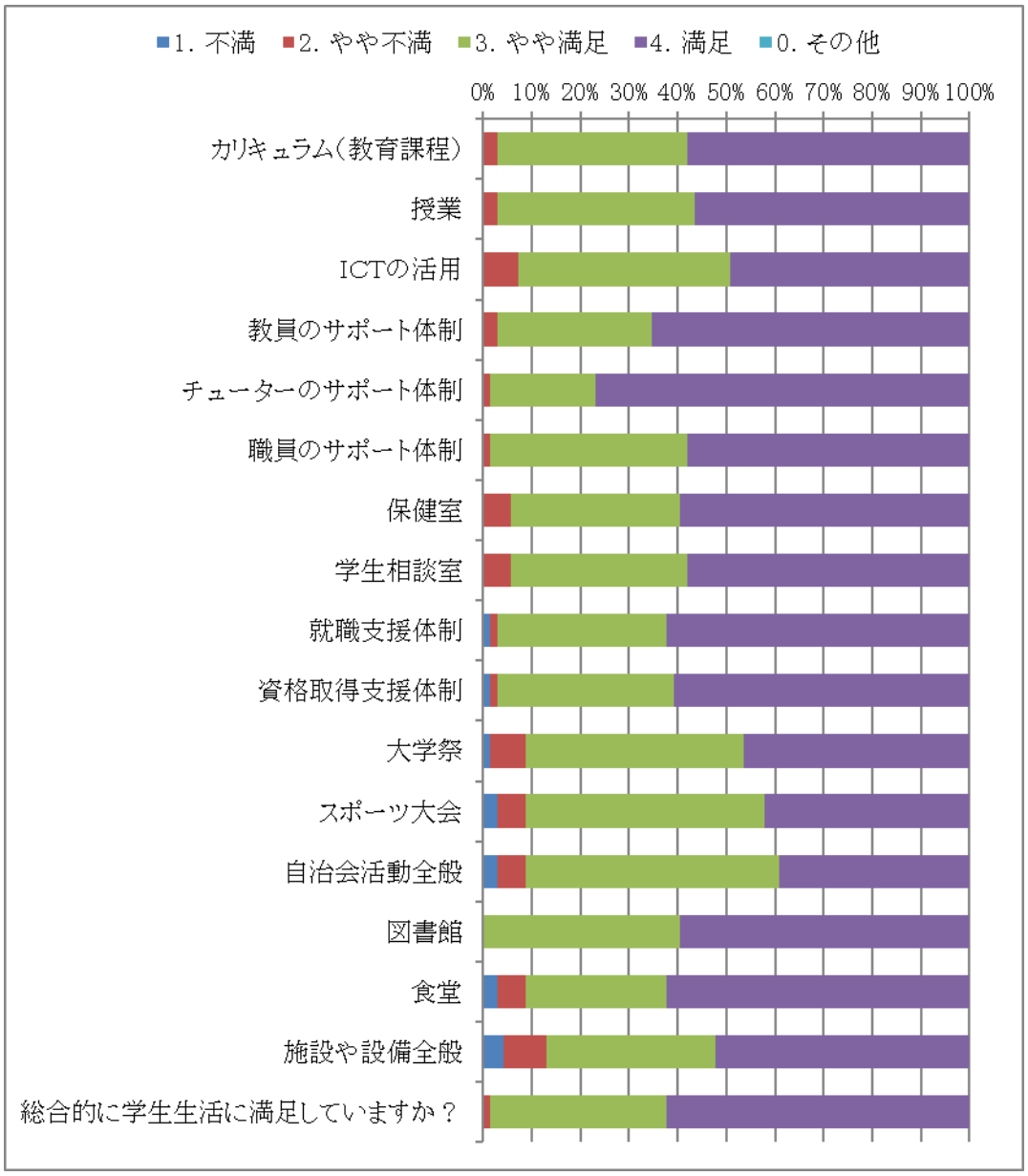
2）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計	満足度
専門的な知識や技術を身に付けることができた。	0 人 0%	0 人 0%	27 人 39%	42 人 61%	0 人 0%	69 人	100%
これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた。	0 人 0%	0 人 0%	24 人 35%	45 人 65%	0 人 0%	69 人	100%
人と積極的にかかわれるようになった。	0 人 0%	5 人 7%	26 人 38%	38 人 55%	0 人 0%	69 人	93%
社会や地域など，だれかのために役立ちたいと考えるようになった。	0 人 0%	0 人 0%	28 人 41%	41 人 59%	0 人 0%	69 人	100%
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった。	0 人 0%	1 人 1%	27 人 39%	41 人 59%	0 人 0%	69 人	99%
短大生活を通して精神的に成長した。	0 人 0%	1 人 1%	29 人 42%	39 人 57%	0 人 0%	69 人	99%
短大生活を通して自立できる自信が付いた。	1 人 1%	0 人 0%	26 人 38%	42 人 61%	0 人 0%	69 人	99%

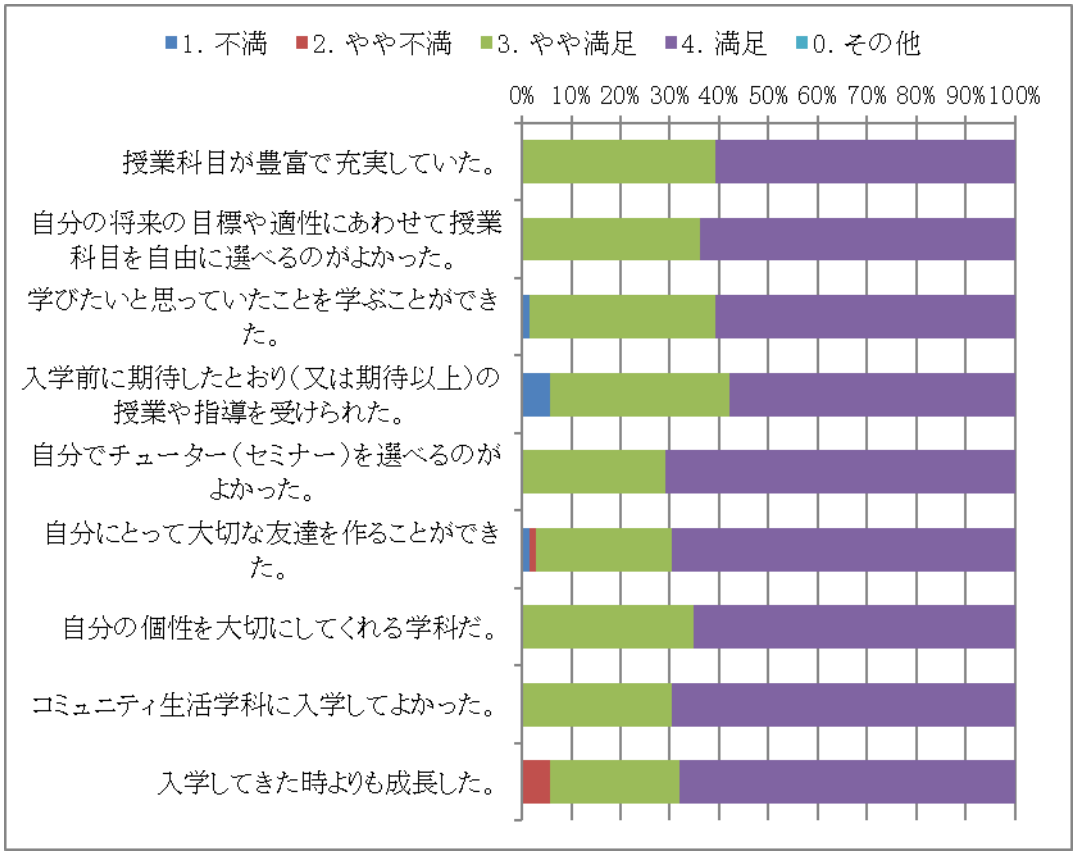
3　グラフ

1）満足度調査

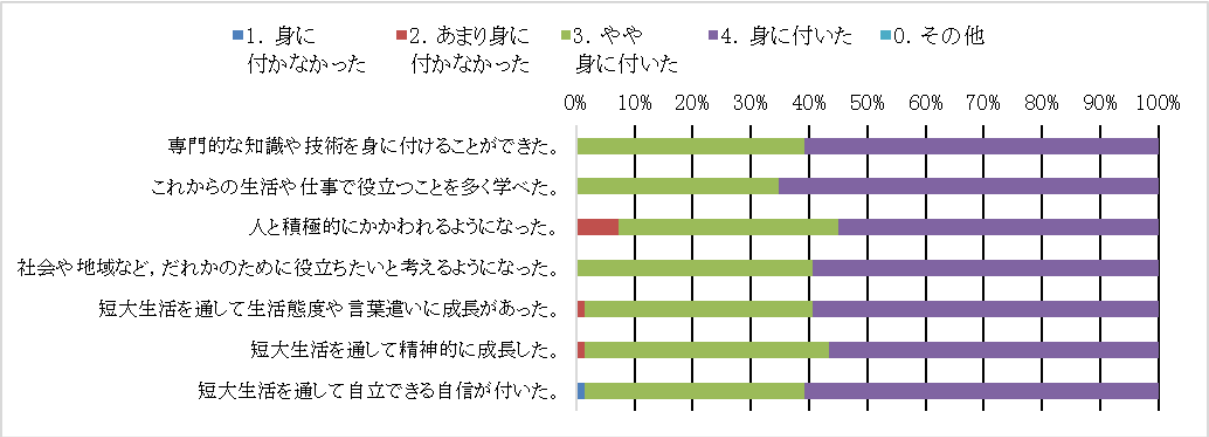
●共通質問項目



●学科独自の質問項目



2）自己点検



４　まとめ

１）満足度調査

（１）状況と課題

満足度調査については，共通質問項目「施設　図書館」について満足度１００％だった。学科独自の質問項目では，「授業科目が豊富で充実していた」「自分の将来の目標や適性に合わせて授業科目を自由に選べるのが良かった」「自分でチューター(セミナー)を選べるのが良かった」「自分の個性を大切にしてくれる学科だ」「コミュニティ生活学科に入学してよかった」の項目で満足度１００％だった。総合的に学生生活に満足していますか？については１年前の９６%から９９％に上昇した。

課題としては，「施設や設備全般」８７％，「食堂」９１％があげられる。

（２）要因分析

共通質問項目については，教務，学生生活，キャリアアップ，施設(図書館)について，満足度９７～１００％と高く，学科独自の質問項目については，すべての項目で９４％と高くなっていた。学科の特徴や学びについて理解をしたうえで入学してきており，期待される学びが実現できた2年間になった評価だと考えられる。また，この学年は，新型コロナウイルス感染症の拡大により，多くの制限の中で高校３年間を過ごしている。感染拡大が収まってきたこの２年間で，本来の学生生活を送ることができたことも満足度の高さにつながっていると考えられる。

（３）令和７年度の対策

引き続き，学生とのコミュニケーションを丁寧に取ることを心掛ける。日々の授業で学の充実を実感できるよう授業や行事を工夫していく。就職支援について９７％と満足度は高いものの，就職に対する意欲別に分けたリストを作成し，それを基にキャリアセンターと連携して各グループの対策を定期的に協議していくこととする。

２）自己点検のまとめ

自己点検については，「人と積極的に関われるようになった」について９３％であったが，「短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった」「短大生活を通して精神的に成長した」「短大生活を通して自立できる自信がついた」の３項目について９９％，「専門的な知識や技術を身に付けることができた」「これからの生活や仕事で役立つことを学べた」「社会や地域など，誰かのために役立ちたいと考えるようになった」の３項目について１００％だった。１年前より全体的に満足度が上がっており，２年次には自分の成長をさらに実感できる授業や行事，チューターや各授業担当教員のサポートによる成果と考えられる。

令和６年度 学生生活の満足度調査結果（食物栄養学科）

１　調査回答者

２年次　５２名（調査対象：５２名　回答率：１００．０％）

２　調査結果

１）満足度調査

●共通質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	0 人 0%	20 人 38%	32 人 62%	0 人 0%	52 人	100%
	授業	0 人 0%	0 人 0%	20 人 38%	32 人 62%	0 人 0%	52 人	100%
	ICTの活用	0 人 0%	1 人 2%	20 人 38%	31 人 60%	0 人 0%	52 人	98%
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	14 人 27%	38 人 73%	0 人 0%	52 人	100%
	チューターのサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	12 人 23%	40 人 77%	0 人 0%	52 人	100%
	職員のサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	12 人 23%	40 人 77%	0 人 0%	52 人	100%
	保健室	0 人 0%	0 人 0%	12 人 23%	40 人 77%	0 人 0%	52 人	100%
	学生相談室	0 人 0%	1 人 2%	17 人 33%	34 人 65%	0 人 0%	52 人	98%
キャリアアップ	就職支援体制	1 人 2%	0 人 0%	13 人 25%	38 人 73%	0 人 0%	52 人	98%
	資格取得支援体制	0 人 0%	0 人 0%	12 人 23%	40 人 77%	0 人 0%	52 人	100%
自治会活動	大学祭	2 人 4%	4 人 8%	17 人 33%	29 人 56%	0 人 0%	52 人	88%
	スポーツ大会	1 人 2%	5 人 10%	21 人 40%	25 人 48%	0 人 0%	52 人	88%
	自治会活動全般	1 人 2%	3 人 6%	22 人 42%	26 人 50%	0 人 0%	52 人	92%
施設	図書館	0 人 0%	1 人 2%	17 人 33%	34 人 65%	0 人 0%	52 人	98%
	食堂	4 人 8%	3 人 6%	14 人 27%	31 人 60%	0 人 0%	52 人	87%
	施設や設備全般	4 人 8%	5 人 10%	15 人 29%	28 人 54%	0 人 0%	52 人	83%
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	0 人 0%	1 人 2%	19 人 37%	32 人 62%	0 人 0%	52 人	98%

●学科独自の質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	食物栄養学科で行われている行事やボランティア活動	1 人 2%	1 人 2%	13 人 25%	37 人 71%	0 人 0%	52 人	96%
	食物栄養学科で行った卒業研究	0 人 0%	0 人 0%	14 人 27%	38 人 73%	0 人 0%	52 人	100%

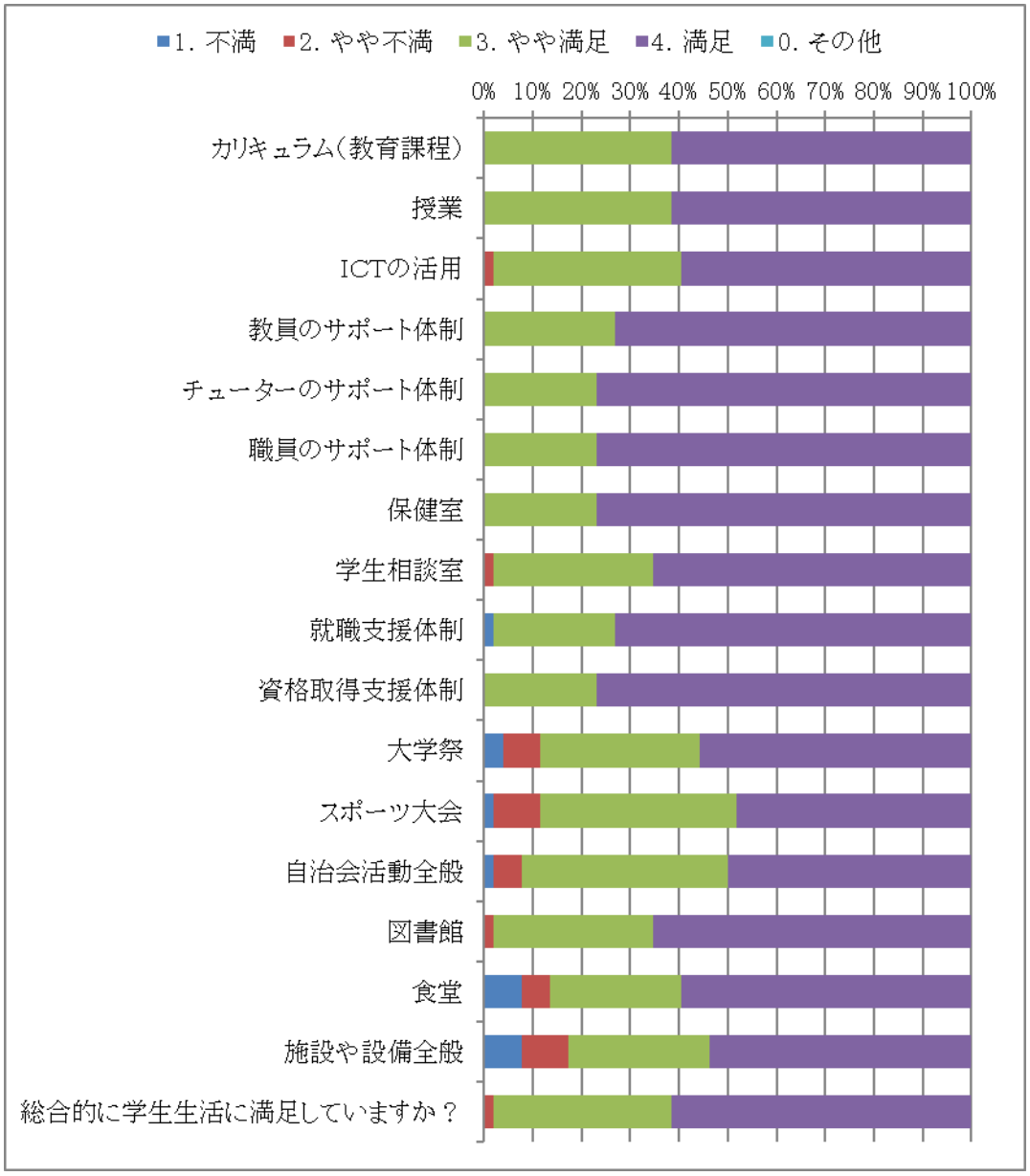
2）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計	満足度
栄養士として必要な専門的な知識や技術を身に付けることができた。	0 人 0%	2 人 4%	13 人 25%	37 人 71%	0 人 0%	52 人	96%
食物栄養学科の2年間で調理技術が向上した。	0 人 0%	1 人 2%	14 人 27%	37 人 71%	0 人 0%	52 人	98%
対象者に合った献立作成や調理，栄養指導ができるようになった。	0 人 0%	2 人 4%	13 人 25%	37 人 71%	0 人 0%	52 人	96%
自らの食生活を振り返り，自己評価することができるようになった。	0 人 0%	2 人 4%	12 人 23%	38 人 73%	0 人 0%	52 人	96%
短大生活を通して社会的に自立できる自信が付いた。	0 人 0%	1 人 2%	16 人 31%	35 人 67%	0 人 0%	52 人	98%

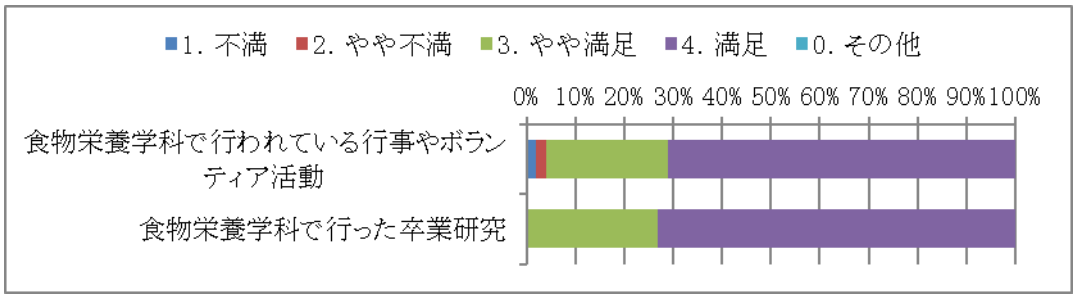
3　グラフ

1）満足度調査

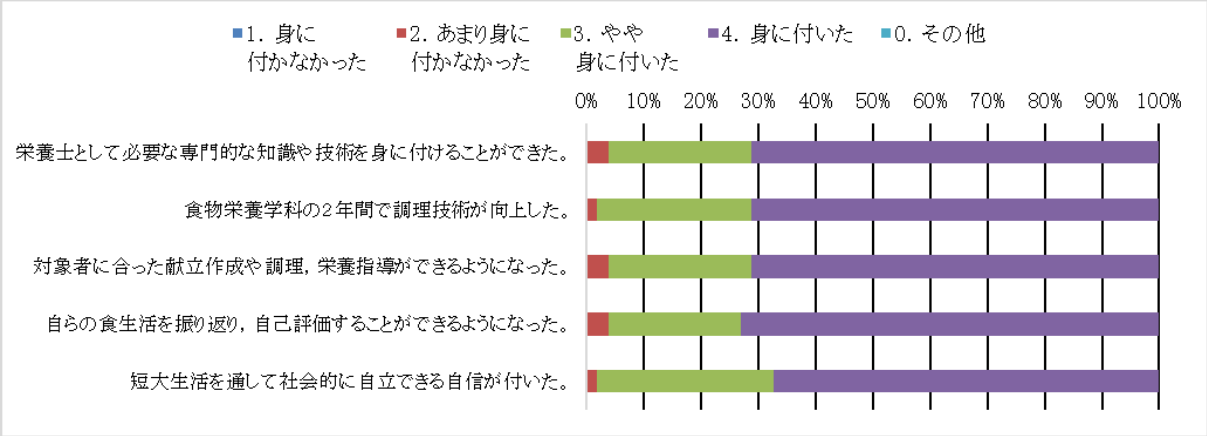
●共通質問項目



●学科独自の質問項目



２）自己点検



４　まとめ

１）満足度調査

（１）状況と課題

今回の調査は６領域，１９項目について行われた。

「教務」領域では，カリキュラム，授業，卒業研究についての３項目において，「満足」又は「やや満足」を回答した者をあわせると１００％と高く評価されていた。ＩＣＴの活用，学科行事やボランティア活動については，いずれも９８％と９６％であり，おおむね満足と評価されていた。一方で，「不満」及び「やや不満」と評価した学生もおり，評価の要因については，調査する必要があると考える。

「学生生活」領域について，「満足」又は「やや満足」と回答した者は，教員のサポート体制，チューターのサポート体制，職員のサポート体制，保健室の４項目はいずれも１００％が満足と評価していた。また，学生相談室については９８％が満足していた。

「キャリアアップ」領域の「満足」又は「やや満足」と回答した者は，就職支援体制は９８％，資格取得体制は１００％であり，学生への指導についておおむね理解されていたものと考える。

「自治会活動」領域の大学祭，スポーツ大会，自治会活動全般の３項目について，「満足」又は「やや満足」と回答した者は８８％から９２％であり，おおむね満足していたものの課題が見られた。

「施設」領域では，「満足」又は「やや満足」と回答した者は，図書館が９８％，食堂が８７％，施設や設備全般が８３％であり，満足度が高くなかった項目については，改善が望まれる。

総合的な学生生活の満足度については，学科が設定している「満足」・「やや満足」をあわ

せて９０％以上の目標に対して，今回の調査結果では９８％であり，目標に達していた。本学科の教育内容や学生生活の支援について，十分理解されていたものと考える。

（２）要因分析

「教務」領域の授業については，対面授業がほぼ予定どおりに実施されたことが高い満足度になった要因と考える。栄養士を始めとする各種資格を取得できる学科として，学生の学びを考えた授業を各教員が実施していたと考える。

「学生生活」領域では，教員やチューター，職員によるサポート体制，保健室は満足度が１００％であり，学生相談室は９８％でいずれも高く評価されていた。食物栄養学科では「きめ細かな学生指導」を行っており，その成果が結果に反映されたものと思われる。

「キャリアアップ」領域の満足度が高かった要因としては，キャリアセンターやチューターによる個別の進路支援に向けたサポート体制が十分効果を発揮しており，学生が希望する進路が決定していたためと考える。

「自治会活動」領域については，大学祭やスポーツ大会，自治会活動等が開催されたことにより満足度がいずれも８８％以上と評価されていた。自治会活動の運営を担当する学生もおり，積極的に参加し，楽しむ姿が多く見られ，学生生活を楽しんでいる様子がうかがえたことが，高い満足度に繋がったものと考える。

「施設」領域については，図書館は「満足」又は「やや満足」をあわせて９８％で，学生のニーズに対応していたものと考えられる。一方で，食堂や施設や設備全般については，満足度が９０％未満であった。食堂は満足度８７％であり，より良い食堂の運営が望まれていることが分かる。施設や設備全般は８３％であり，講義室や実験実習教室の施設環境や設備・備品の老朽化や講義室の机や椅子の不具合などが要因と考えられる。

総合的な満足度は９８％であり，学科が設定している「満足」・「やや満足」が９０％以上に対して目標を達成することができた。本年度は，学科における授業や様々な活動等を通して，学生自らが学生生活を充実させたいと努力しており，総合的に学生生活に満足していたものと考える。

（３）令和７年度の対策

教務においては，引き続き学科における授業内容を充実させるとともに，学科の行事やボランティア活動，卒業研究発表会等がさらに充実するよう取り組む。

セミナー＆チューター制を活用して，引き続き学生に寄り添ったきめ細かい支援を行い，他部署と連携しながら，学業や学生生活，進路支援などを行い，満足度の向上に努める。

２）自己点検のまとめ

自己点検の５項目については，「身に付いた」と「やや身に付いた」を合計して「身に付いた」を満足度評価とすると，すべての項目において「身に付いた」が９６％から９８％であり，高い満足度であった。

２年次の授業や栄養士の校外実習及び卒業研究発表会などを通して，栄養士としての知識や技術を身に付け，１年次よりもさらに自分の成長を実感したものと思われる。特に，「調理技術が向上した」と「社会的に自立できる自信がついた」が９８％であり，学生達の精神面についても成長が感じられる結果となった。今後も学生自身が成長を実感できるような学生支援に努めたい。

令和６年度 学生生活の満足度調査結果（保育学科）

１　調査回答者

２年次　３６名（調査対象：３７名　回答率：９７．３％）

２　調査結果

１）満足度調査

●共通質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	カリキュラム（教育課程）	0 人 0%	3 人 8%	18 人 50%	15 人 42%	0 人 0%	36 人	92%
	授業	0 人 0%	3 人 8%	19 人 53%	14 人 39%	0 人 0%	36 人	92%
	ICTの活用	1 人 3%	3 人 8%	22 人 61%	10 人 28%	0 人 0%	36 人	89%
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	3 人 8%	17 人 47%	16 人 44%	0 人 0%	36 人	92%
	チューターのサポート体制	0 人 0%	1 人 3%	14 人 39%	21 人 58%	0 人 0%	36 人	97%
	職員のサポート体制	1 人 3%	2 人 6%	16 人 44%	17 人 47%	0 人 0%	36 人	92%
	保健室	0 人 0%	1 人 3%	15 人 42%	20 人 56%	0 人 0%	36 人	97%
	学生相談室	1 人 3%	3 人 8%	17 人 47%	15 人 42%	0 人 0%	36 人	89%
キャリアアップ	就職支援体制	1 人 3%	2 人 6%	17 人 47%	16 人 44%	0 人 0%	36 人	92%
	資格取得支援体制	1 人 3%	1 人 3%	18 人 50%	16 人 44%	0 人 0%	36 人	94%
自治会活動	大学祭	0 人 0%	1 人 3%	19 人 53%	16 人 44%	0 人 0%	36 人	97%
	スポーツ大会	0 人 0%	1 人 3%	20 人 56%	15 人 42%	0 人 0%	36 人	97%
	自治会活動全般	0 人 0%	2 人 6%	22 人 61%	12 人 33%	0 人 0%	36 人	94%
施設	図書館	0 人 0%	0 人 0%	14 人 39%	22 人 61%	0 人 0%	36 人	100%
	食堂	0 人 0%	2 人 6%	16 人 44%	18 人 50%	0 人 0%	36 人	94%
	施設や設備全般	2 人 6%	5 人 14%	15 人 42%	14 人 39%	0 人 0%	36 人	81%
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	2 人 6%	1 人 3%	15 人 42%	18 人 50%	0 人 0%	36 人	92%

●学科独自の質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	授業科目が充実していた	0 人 0%	2 人 6%	22 人 61%	12 人 33%	0 人 0%	36 人	94%
	ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた。	0 人 0%	0 人 0%	11 人 31%	25 人 69%	0 人 0%	36 人	100%
	教育実習で保育力を伸ばすことができた。	0 人 0%	0 人 0%	16 人 44%	20 人 56%	0 人 0%	36 人	100%
	運動会等で実践力を伸ばすことができた。	0 人 0%	2 人 6%	18 人 50%	16 人 44%	0 人 0%	36 人	94%
	入学前に期待したどおりの授業や指導を受けられた。	1 人 3%	5 人 14%	16 人 44%	14 人 39%	0 人 0%	36 人	83%
学生生活	自分にとって大切な友達を作ることができた。	0 人 0%	3 人 8%	13 人 36%	20 人 56%	0 人 0%	36 人	92%
	保育学科に入学してよかった。	2 人 6%	3 人 8%	12 人 33%	19 人 53%	0 人 0%	36 人	86%

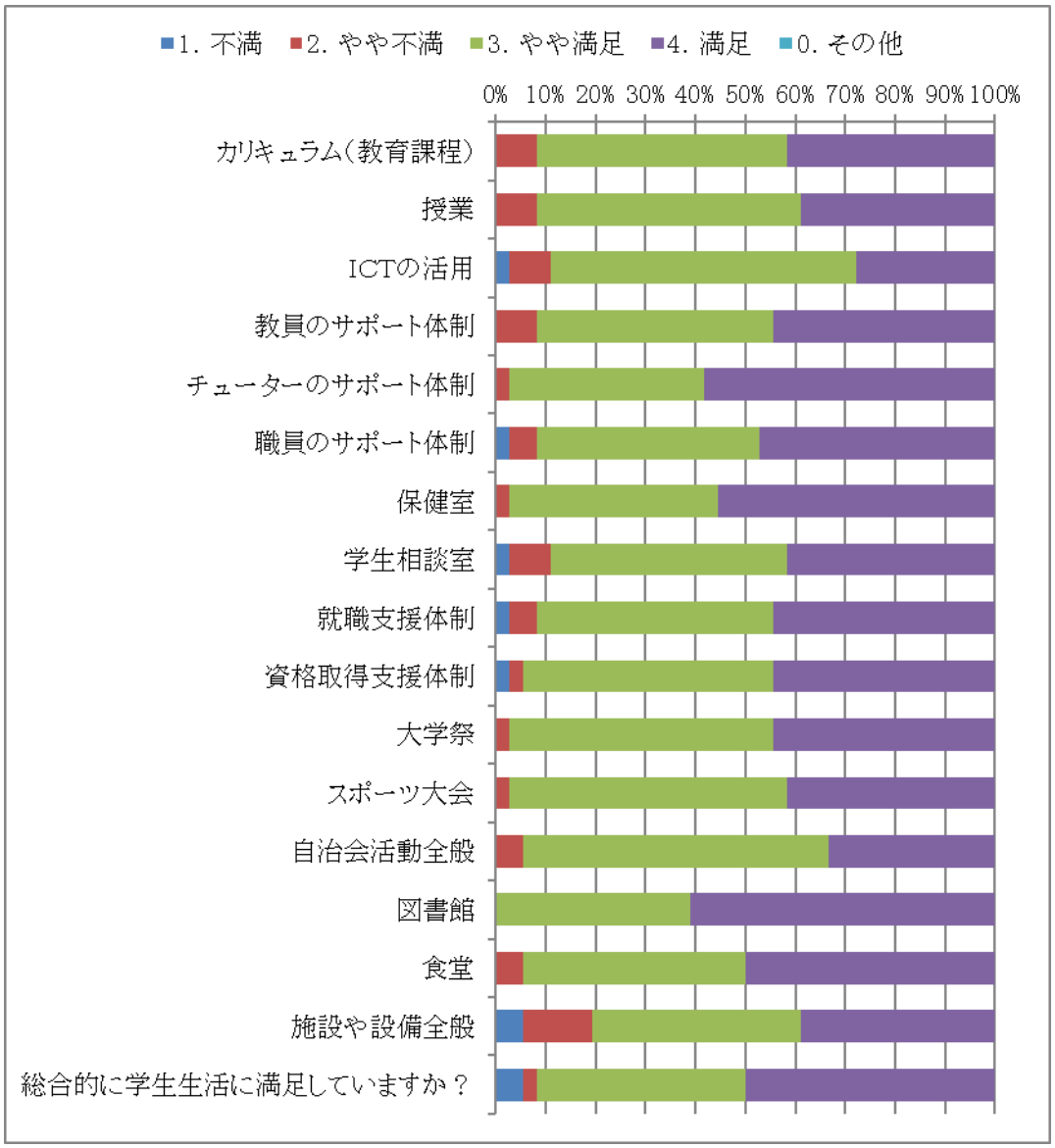
2）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計	満足度
短大生活を通して専門的な知識や技術を身に付けることができた。	0 人 0%	0 人 0%	21 人 58%	15 人 42%	0 人 0%	36 人	100%
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった。	1 人 3%	4 人 11%	16 人 44%	15 人 42%	0 人 0%	36 人	86%
短大生活を通して精神的に成長した。	1 人 3%	1 人 3%	18 人 50%	16 人 44%	0 人 0%	36 人	94%
短大生活を通して自立できる自信が付いた。	1 人 3%	3 人 8%	18 人 50%	14 人 39%	0 人 0%	36 人	89%
自立した大人として責任を持った行動ができるようになった。	1 人 3%	2 人 6%	17 人 47%	16 人 44%	0 人 0%	36 人	92%
チームワークを大切にすることができるようになった。	1 人 3%	1 人 3%	19 人 53%	15 人 42%	0 人 0%	36 人	94%
周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった。	1 人 3%	3 人 8%	18 人 50%	14 人 39%	0 人 0%	36 人	89%
社会や地域など，誰かのために役に立ちたいと考えるようになった。	1 人 3%	2 人 6%	19 人 53%	14 人 39%	0 人 0%	36 人	92%

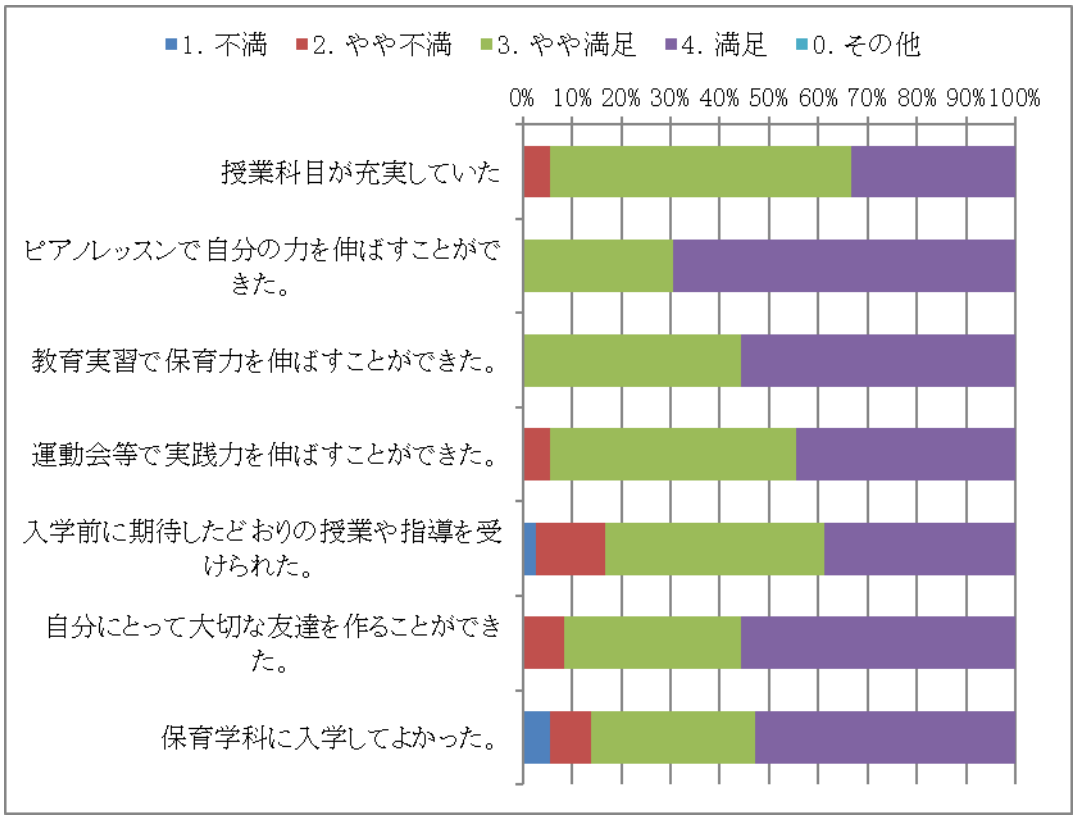
3　グラフ

1）満足度調査

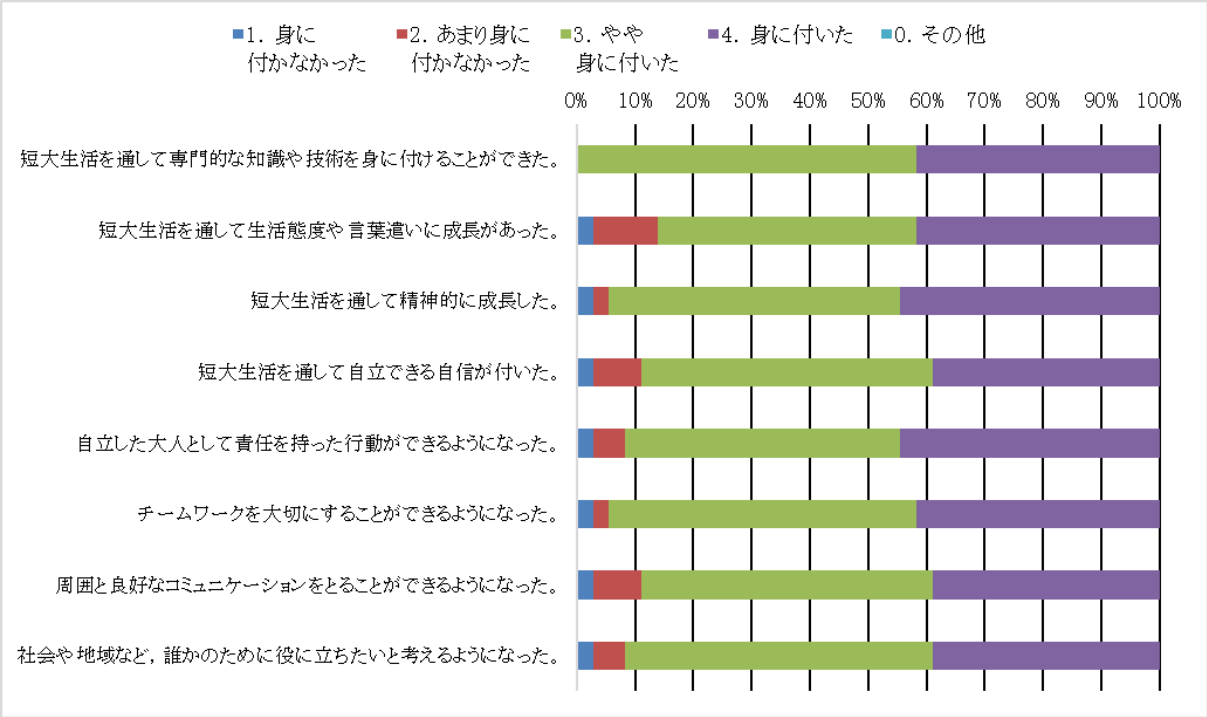
●共通質問項目



●学科独自の質問項目



2）自己点検



４　まとめ

１）満足度調査

（１）状況と課題

①　「教務」領域

“満足群”を表す「3. やや満足」と「4. 満足」の占める割合は全体に高かった。９０％を切ったものは「ＩＣＴの活用」であった。学科独自の調査項目では「入学前に期待したとおりの授業や指導を受けられた」（８３％）を除いて，他の項目は９０％以上であった。本学科が指導の特色としているピアノレッスンでは,「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」は前年度より４ポイント高く,「教育実習で保育力を伸ばすことができた」は６ポイント高まり１００％であった。一方,「運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた」については２ポイント下がり，９４％となった。「入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた」についてはその内容について，学生から聞き取るなど別の調査方法で内容を具体的に把握する必要がある。

②　「学生生活」領域

「教員のサポート体制」「チューターのサポート体制」「職員のサポート体制」の満足度はいずれも９０％を超える結果であった。「学生相談室」８９％であり低くはなかったが一層の向上が望まれる。

③　「キャリアアップ」領域

「就職支援」については９２％,「資格取得支援」については９４％であり，非常に高い満足度となった。しかし，今年度は就職に向けての動きが遅い傾向が見られ，指導の改善が必要である。

④　「自治会活動」領域

「大学祭」,「スポーツ大会」,「自治会活動」のいずれも項目においても，前年度を上回る満足度となった。スポーツ大会は前年度から１５ポイント上昇し，９７％であった。

⑤　「施設」領域

「図書館」「食堂」についてはそれぞれ１００％，９４％と高い満足度であった。一方,「施設や設備全般」については,“不満足群”の割合は１９％であり，前年度２１％に引き続き，改善が課題である。

（２）要因分析

「教務」の領域で「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」が１００％と高い満足度となったのは,「初心者のピアノ指導の充実」が学科の指導を強く特色付けるものであり，常勤・非常勤の講師陣の指導力の高さを反映している。「入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた」については，前年度から７ポイント下回っており，指導レベルとの相違や学修への構え十分に形成されていない恐れもある。したがって，学生がどのような期待感をもって入学してくるのかなど，内容や期待の程度等についてチューター面談等を通して把握する必要がある。

「学生生活」の領域では,「教員のサポート体制」「チューターのサポート体制」「職員のサポート体制」の満足度はいずれも９０％を超える結果であり，学生個別へのきめ細やかな対応と支援が適切であったと思われる。「学生相談室」については８９％であったので，より利用しやすい環境にする必要性もうかがえる。「施設」の領域では，施設や設備全般について“不満足群”が２２％と比較的多いが，施設の老朽化等が影響しているものと思われる。

（３）令和７年度の対策

・学科の指導の強みである「ピアノレッスン」は非常勤講師と連携し，引き続き高い指導力の維持に努 める。ピアノ演奏のスキルの向上度合いがわかるように可視化する方法を検討するよう働きかける。

・授業や行事の区切りのよいところで, 学生が学修の成果を実感できる方法を一層工夫する。

・学生の自己肯定感が高まるよう，成果が体験型重視の活動を取り入れ，個々の長所を生かしそれが発　揮できるよう活動内容の工夫を行う。

・２年次の学生には学科のリーダーとしての資質を身に付けるべく，意識付けをし，１年次生との共同活動の場を設定し，学生同士の一体感，充実感や成長実感が得られるように創意工夫する。

・学生の生育環境，経済状況，課題の有無等，一人一人の学生の状況を的確に把握し，学修を支援するとともに，就職活動等に積極的に取り組むよう，組織的に働きかけを行う。

２）自己点検のまとめ

おおむね多くの項目において肯定的評価が９０％を超える高い評価結果となった。しかし，「短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった」は，前年度から８ポイント下がり８６％，「短大生活を通して自立できる自信が付いた」は５ポイント下がり８９％，「周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった」は９ポイント下がり８９％となった。割合としては高いといえるが，前年度比較では下降していることに留意したい。

一方「短大生活を通して専門的な知識や技術を身に付けことができた」は１００％であった。専門的なスキル習得は指導の主たる柱として取り組んできており，その成果が表れたものと思われる。２年次は最終年次であり，２年間の学びの成果を総括的に評価（アセスメント）し，課題の所在を明らかにするとともに，次の年次に向け検討の方向性を示す必要がある。他者との関わりやレジリエンスなどの非認知能力，いわゆる情動的スキルは単発的な行事において育成するというよりも，日々の学生生活を通して育成していくものであり，学生の状況に応じた受容を基本としつつも，見通しをもって一定の負荷をかけながら指導していくことが必要となる。今後は，専門的なスキルの習得に加え，倫理観や貢献観という精神的な成熟を意識した取組を工夫していきたい。